

タイトル： スペイン語授業における tú と usted の使い分け

担当 小山朋子

1. 報告内容

学生が活用を理解しているかを判断するために、tú は「君」、usted は「あなた」で教え、その訳し分けを試験で徹底させている。しかし、学生はこれまで英語の you を「あなた」で訳すことに慣れており、試験中、わかってはいても tú を「あなた」と訳してしまうことがある。そのような場合に減点対象となるのはどうも心苦しい。

また、和訳の際「主語を明記するように」指示するが、文体によっては不自然になることが多い。

2. 討論

□試験ではどのように判定すればいいか

- ・日本語訳にこだわらず、主語を記号で明記させてはどうか。
- ・和訳問題では tú と usted の訳し分けにこだわらず、活用の区別を判断する問題は別に設ける。
- ・シチュエーションを明確にした和訳問題でないと、不自然。短文だけを訳させるのには限界がある。
- ・西問西答の問題では、tú の主語はぬけてもいいが、答えの文で「私は～」という主語があれば OK とする。
- ・語尾で親しい人へ話しかける文と判断できれば、tú は「あなた」でも構わない。

□そもそも tú は「君」、usted は「あなた」でいいのか

- ・国、地域、状況によって異なるので、区別を規定するのは不可能。
- ・自然な文体ができていればそれを誤りとするべきではない。
- ・そもそも女性は親しい相手に「君」とは言わないし、目上の人に敬語として「あなた」は使わない。